

加古川市立八幡小学校 令和6年度 第2回 学校運営協議会 議事録

日時 令和6年10月10日(月) 9時40分～10時50分

場所 八幡小学校 会議室

参加者 委員：地域コーディネーター、主任民生児童委員、学校ボランティア代表、
老人クラブ会長、PTA会長
学校：校長、教頭

議事 ①人権授業参観

②開会あいさつ(校長)

【学校行事について】

- ・修学旅行の取組についての説明を行う。【新たな、京都市内の班別自由行動の取組について】
- ・各学年の校外学習においても、班行動を取り入れた内容にしている。
- ・各学年の取組についての説明を行う(1・2年…神戸どうぶつ王国、3年…マルアイの見学、4年…電車を使って明石天文科学館へ)
- ・各学年の発達段階に応じた「自分で考えて、行動できる子どもに」を目指した取組を目指していく。

【学習の様子について】

- ・授業参観の雰囲気は、良い緊張感があり、保護者の存在が大きい。
- ・普段は、なかなかこのようにはいかないことが多い。
- ・学習規律の定着、話の聞き方やイスの座り方について、今後も継続した取組が必要と感じている。

③人権授業参観の感想、および、意見交流

【感想・ご意見】

(老人クラブ会長)

- ・タブレットをメインに使用する授業は、先生と子どもの視線が合いにくいのが気になり、子どもと目線を合わせる授業に取り組んでいただきたい。

- ・タブレットメインだと、学習が平面的に感じる（深まりが弱いような）。
- ・LGBTQの授業の映像の扱い方がわかりやすくよかった。パラリンピックなど、身近なテーマの選定が子どもたちにとっても考えやすかったのではないかと思う。最近、タブレット（パソコン）で文章を（一方的に）伝えることはできる人は多いが、個人同士で自分の意見をしっかりと伝えられる人は少ない。今後の世の中が大変気になる。学校では、対話を大切にするなど、人間同士の温かみのある授業であってほしい。
- ・昨今のネット環境の広がりによる、闇バイト（短時間で簡単に得られる）や簡単に悪い連中と簡単につながれてしまうことが気がかり。ネット社会の表と裏の部分のしっかりと理解した上で利用させたい（大人といれども、十分に理解できている人は少ないと思う）。

（PTA 会長）

- ・1学期と比べて、子どもたちが落ち着いて授業をする姿がよく、成長を感じた。
- ・自分の頃と比べて、あんなに静かな授業を見て、驚くばかりであった。
- ・となりの3年生は、タブレットを使用していたこともあり、さらに静かに感じた。

（地域コーディネーター）

- ・保護者の参観者数が多く、熱心さを感じる。
- ・タブレットを使用することが当たり前になっているが、だからこそ、あえて使わない授業、対話重視の授業を仕組んでみてはどうか。時には、そういうのも新鮮かも知れない。
- ・地域に目を向けると、地場産業を大切にしている人がいる反面、役員のなり手がいないということも問題となっている。
- ・多様性＝自由になんでもできる、とはちがう。
- ・地域の祭りを通じて、世代間交流のよい機会となり、地域みんなで子どもを育てる雰囲気醸成していきたい。

（学校ボランティア代表）

- ・子どもたちは、タブレットの操作に非常に慣れていて、成長と共にますます技術の向上が見られるのではないかと思う。
- ・各学年、工夫を凝らしたよいテーマであり、子どもたちは集中して学習に取り

組んでいた。

- ・昔と比べ、今は多様性を認める社会になっており、「男らしさ」や「女らしさ」ということよりも、「自分らしさ」を重視する風潮になっている。年配の大人の思考の転換が必要だと感じる。

(主任民生児童委員)

- ・運動場に停めている車の数を見て、保護者の数が多く来ているなど感じた。
- ・ネット社会では、正しい情報を得ることが難しく、見極めの難しさがある。自分の興味のある話題が自動的に出てくるので、知識が偏る傾向がある。情報に振り回されないこと（親や子どものほうが先に知っていることも多い）が重要。
- ・入ってきた情報を、自分なりに発信する（自分がどう理解しているか）ことも重要。
- ・AIの進化も気になるところである。
- ・自分らしく生きることが認められるようになった時代となり、ありのままにいられることの素晴らしさを感じる反面、苦手なことから避けてばかりでよいのかということも気になる。
- ・子どもたちの学びの深まりに期待したいし、発表者を向いてしっかり聞く姿勢を身に付けてほしい。

④職員中間評価の報告

学校教育目標に照らし合わせた自己評価を行い、今後の改善点を整理したことを教頭より報告する。